

2006年度 環境活動レポート

(2006.03.01~2007.02.28)

【エコアクション21認証】 認証・登録日:2005.11.1 有効期限:2007.10.31	会社名	株式会社 ブリッジ・メタウェア
	所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-23-5銀洋第2ビル2F
環境活動レポート 作成者・作成日:郡司 2007.3.27 承認者・承認日:佐倉井 2007.4.20 公開日:	代表者	代表取締役 佐倉井 章
	連絡先	TEL:045-313-2129 FAX:045-313-2179

目次

No	主題/副題		P
I.	会社概要	1)会社概要 2)事業活動の特徴と環境負荷概要	03
II.	環境方針		04
III.	社内環境コミュニケーション		05
IV.	06年度の環境目標とその実績		
1.	目標設定と調査していない負荷項目について	1)目標設定について 2)調査していない負荷項目について	06
2.	06年度の環境目標とその実績	1)中期目標とその実績 2)単年度目標とその実績	07
3.	項目別負荷実績	3-1 Co2排出量	08
3.	項目別負荷実績	3-2 電力使用量	09
3.	項目別負荷実績	3-3 ガソリン使用量	10
3.	項目別負荷実績	3-4 廃棄物総排出量	11
V.	主要な環境活動と計画の内容		
1.	主要な環境活動計画の概要		12
2.	環境活動計画の内容	2-1 節電対策	
2.	環境活動計画の内容	2-2 ゴミの分別 2-3 紙類の溶解処理依頼	13
2.	環境活動計画の内容	2-4 エコ商品の購入	14
2.	環境活動計画の内容	2-5 エコ推奨チェックリスト	15
2.	環境活動計画の内容	2-6 社内エコ促進活動	16
2.	環境活動計画の内容	2-7 緊急事態の対応	17
VI.	環境保全活動の取組結果の評価		18
VII.	環境関連法規への違反・訴訟の有無		19
VIII.	07年度の環境目標	1)中期目標について 2)単年度目標について	20
IX.	07年度の環境活動計画		21

I. 会社概要

1) 会社概要

表 I 会社概要

社名	株式会社 ブリッジ・メタウェア
事業所	〒221-0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町 2-23-5 銀洋第2ビル2F
環境管理責任者	代表取締役 佐倉井 章
連絡先	TEL 045-(313)-2129 FAX 045-(313)-2179 e-mail bm-ea21@bridgemw.co.jp URL http://www.bridgemw.co.jp/
事業内容	ソフトウェア開発・ネットワーク技術支援・web開発・ホスティングサービス等
事業規模	従業員数: 10名 事務所面積: 98.05㎡

2) 事業活動の特徴と環境負荷概要

2-1) 事業活動と電力使用

インターネット接続環境を維持するためのサーバ群(ホスティングサービス用含む)は、24時間連続稼働を行っています。
また、それらサーバ群の環境温度調整のために、温調設備の稼働も行っています。
温調設備稼働による消費電力量は、「動力用」として、その他の消費電力量(「電灯用」)と別けて計測されています。
「動力用」の電力使用量は、温調設備を冷房用としてのみ使用するため夏場をピークとする季節変動があります。
「電灯用」の電力使用は、照明電灯及び事務機器(コンピュータを含む)によるものとなります。

2-2) 事業活動と電力使用以外の環境負荷

当社の商品は、無形であるソフトウェアプログラムやシステムサービスの提供です。
このため、商品製造過程での化学物質の排出等はありません。
また、ガソリンの使用は、通勤経路内部分移動・事務機器一時移動・緊急時や打合先移動用として借上げている車の利用によるもので、車の用途自体が商品の配達や巡回営業活動によるものではないため、事業活動規模に比例する部分は、あまりありません。

Ⅱ. 環境方針

株式会社 ブリッジ・メタウェアは、「問題、ニーズから本質的な解決、サービスを「メタウェア」として創造提供すること。」という企業理念と行動指針をもとに、地球環境の保全に関して自主的かつ積極的な取り組みを行います。

- 1.環境管理体制** 環境担当役員を代表取締役とし、環境管理の責任と権限を明確にして、環境保全活動を推進します。
- 2.法規制の遵守** 国や地方自治体等の環境規制を遵守するとともに、自主管理基準を定めて、環境保全に努めます。
- 3.環境負荷の低減** 事業活動において、省エネルギー、省資源、廃棄物の分別、削減の目標設定と定期的見直しを行ない、継続的な管理と改善に努めます。

1)省エネルギー

- 使用電力の情報収集を毎月行い、継続的な管理と改善に取り組みます。コンピュータサーバ等の動作維持に必要な電力消費量は、その動作維持条件(台数、室温、湿度など)の見直し、照明を含めた節電や使用機器のエネルギー効率改善を含めた対策で取り組みます。

2)省資源

- 事務用品等の購入明細の情報収集を毎月行い、継続的な管理と改善に取り組みます。エコマーク商品の優先購入、特にパソコンの購入においてはPCリサイクル等のリサイクル対応商品を対象とします。

3)廃棄物の分別、削減

- 規定した分別廃棄の実施と廃棄時の減容量化に取り組みます。
- 分別種類毎に廃棄量(概算の容量及び重量)の情報収集を毎月行い、継続的な管理と改善に取り組みます。
- 情報セキュリティ対策
情報資産(個人情報を含む)の廃棄に関しては管理廃棄の対象とし、社内規程類に従い、裁断、破碎など必要な処置を加えるとともに、選定した廃棄委託先に処理を委託して廃棄情報等からの情報漏洩防止に取り組みます。

- 4.教育訓練** 毎月1回の定例会議での環境情報の提供により、環境保全に向けた全従業員の意識高揚を図ります。
- 5.社会との共生** 事業活動の場の提供元との環境保全活動に協力します。
- 6.環境基本方針の公開** このBM-EA21環境基本方針は、社内外に公開します。

株)ブリッジ・メタウェア 代表取締役 佐倉井 章 2005/04/02 改訂 V1.1
2004/07/12 初版 V1.0
2004/06/30 宣言

Ⅲ. 社内環境コミュニケーション

当社環境方針にて、「毎月1回の定例会議での環境情報の提供により、環境保全に向けた全従業員の意識高揚を図る」としています。この定例会議時に、資料として月毎の環境活動報告書である「月次レポート」を作成し、EA21の取り組みに対するチェックを行っています。当社での主な環境活動は、一ヶ月周期のPDCAサイクル(下図)であり、かつ「月次レポート」を中心とした「社内環境コミュニケーション」です。その年間のまとめが「環境活動レポート」となります。



図 Ⅲ-1 一ヶ月周期のPDCAサイクル

IV. 06年度環境目標とその実績

1. 目標設定と調査していない負荷項目について

1) 目標設定について

1-1) 中期目標 ■売上当りの二酸化炭素排出量の継続低減（～1割低減）

二酸化炭素の排出量の増加は、地球温暖化や酸性雨の原因となり、地球規模の環境問題となっています。企業も、環境負荷の発生を抑制しながら事業の継続的発展を図ることが必要です。このため、事業活動規模当りの二酸化炭素排出量を低減することを環境活動の目的とし、各年度とも事業活動規模当りの二酸化炭素排出量を前年度より低減（～1割低減）して継続していくことを目標とします。事業活動規模の算定の要素には、売上、事務所面積、人員数、設備等がありますが、継続して各年度の二酸化炭素排出量の事業活動実績効率として評価するために、売上を事業活動規模の基準とします。

1-2) 単年度目標 ■各環境負荷の計画管理目標（前年度実績×事業規模比×0.9）による増加抑制・低減

二酸化炭素排出量の具体的な低減には、省エネルギー、省資源、廃棄物削減を心がけ、事業活動での各環境負担を減らすことが必要になります。それぞれの環境負荷項目は、前述の事業活動規模の算定の要素から各年度で計画管理目標を設定し、最終的に事業活動規模（売上）当りの二酸化炭素排出量を削減できるよう活動を行います。各年度の計画管理目標は、変化する事業活動規模比を考慮して量の増加がある場合、その増加量分の1割削減の量をもって管理目標とします。

2) 調査していない負荷項目について

総物資投入量

当項目は「原材料・部品・包装材等の消費」という活動に伴う負荷チェック項目ですが、当社の「物資投入量」は上記3点に含まれないと考えるためです。

水資源投入量

「上水、工事用水、地下水等」を製品生産活動に使用していないためです。

総排水量

排水をビル全体で管理しているため、会社単体での排水量の把握が困難なためです。

化学物質排出量

製品生産の過程で化学物質の排出がないためです。

総製品生産量

当項目は「製品の開発・設計等における環境配慮」の啓発を目的とした項目ですが、当社の開発製品は無形であり、環境配慮に事実上関われないためです。

以上の理由により、上記5項目の環境負荷は測定していません。

IV. 06年度環境目標とその実績

2. 06年度環境目標とその実績

1) 中期目標とその実績

■売上当りの二酸化炭素排出量の継続低減(～1割低減)

表 IV-2-1 売上当りの二酸化炭素排出量(t-co2/億円)

項目	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度
CO2(t-CO2/億円)	18.3	17.4	18.0	-	-	-
目標(t-Co2/億円)		16.5～18.3	16.4～17.4	16.4～17.4	16.4～17.4	16.4～17.4
前年度比(%)		95%	103%	-	-	-
評価		○	△	-	-	-

2) 単年度目標とその実績

■各環境負荷の計画管理目標(前年度実績×事業規模比×0.9)による増加抑制・低減

表 IV-2-2 各環境負荷の計画管理目標とその実績

環境負荷項目	05年度	06年度						
	実績	事業活動規模 前年比	削減率	計画管理 目標	実績	目標	計画実績比	評価
Co2	19.98 (t-CO2)	1.29 売上計画比	0.9	23.20 (t-CO2)	23.71 (t-CO2)	<23.20 (t-CO2)	103%	△
電力	390.24 (KMJ)	1.29 売上計画比	0.9	453.07 (KMJ)	532.42 (KMJ)	<453.07 (KMJ)	118%	×
ガソリン	46.91 (KMJ)	1.00 車台数比	1.0	46.91 (KMJ)	47.31 (KMJ)	<46.91 (KMJ)	101%	△
廃棄物	843 (kg)	前年度総排出量 (移転時廃棄分のぞく)	1.0	320 (kg)	192.6 (kg)	<320 (kg)	60%	◎

IV. 06年度環境目標とその実績

3. 項目別負荷実績

3-1 Co2排出量

06年度のCO2排出量は、**23,713kg-CO2**の実績となりました。

このCO2排出量は、**※管理目標:23,200kg-CO2**の**103%**に相当します。

※管理目標=前年05年度実績(19,976kg-CO2)×事業活動規模(売上計画費:1.29)×0.9(増分1割削減)

また、05年度実績に対し、前年比**120%**となりました。

Co2排出量換算の内訳である環境負荷とその構成比率は、

電力(86.5%)・ガソリン(13.3%)・廃棄物(0.2%)となり、前年05年度と比較して、電力量の比率が増加しました。

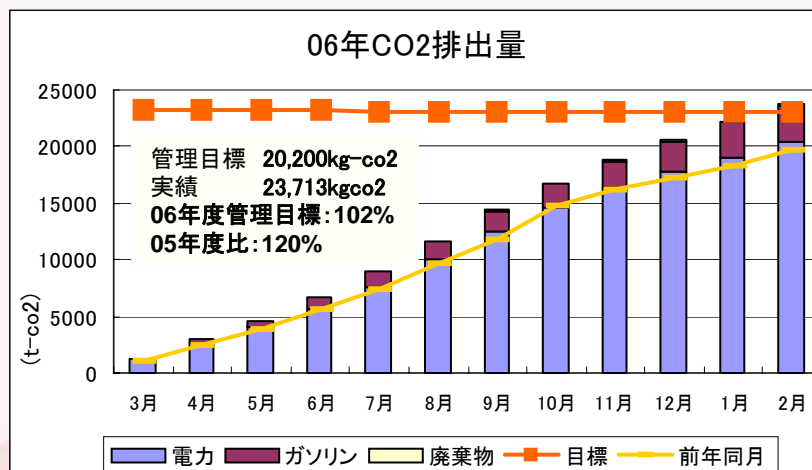


図 IV-3-1-1 06年度月別CO2排出累積量(kg-CO2)

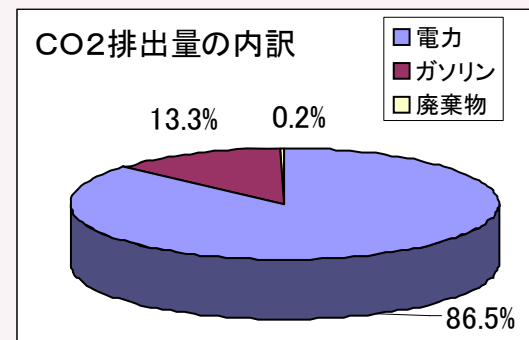


図 IV-3-1-2 06年度CO2排出累積量(t-co2)内訳

IV. 06年度環境目標とその実績

3. 項目別負荷実績

3-2 電力使用量

06年度の電力使用量は、**54,163kwh**の実績となりました。

この電力使用量は、**※管理目標: 46,090kwh**の**118%**に相当します。

※管理目標=前年05年度実績(39,699kwh) × 事業活動規模(売上計画費: 1.29) × 0.9(増分1割削減)

また、05年度実績に対し、前年比**136%**となりました。

使用電力換算の内訳である電灯と動力の構成比率は、電灯(66%)・動力(34%)となり05年度とほぼ同様でした。

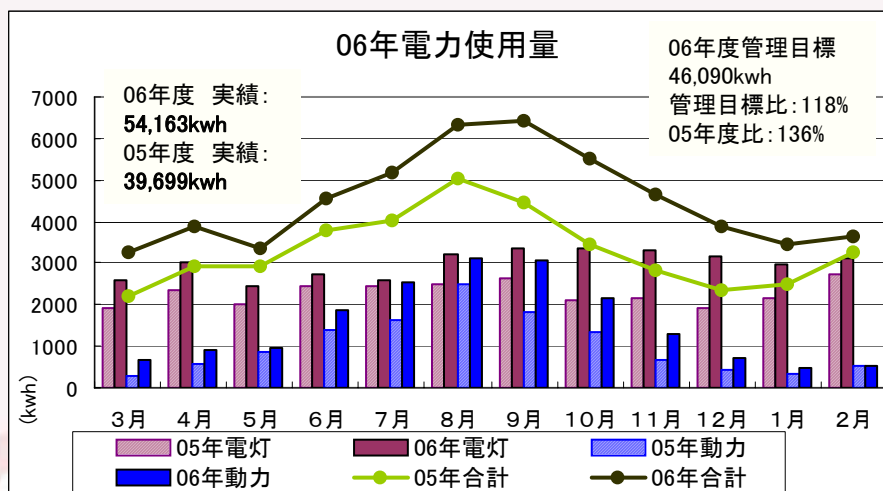


図 IV-3-2-1 06年度月別電力使用量(kwh)

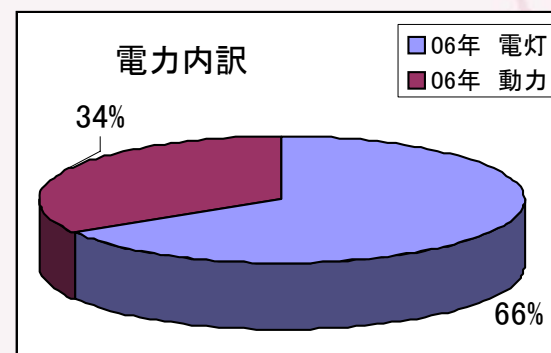


図 IV-3-2-2 06年度電力内訳(電灯、動力)

IV. 06年度環境目標とその実績

3. 項目別負荷実績

3-3 ガソリン使用量

06年度のガソリン使用量は、**1,367.43L**の実績となりました。
このガソリン使用量は、**※管理目標:1,355L**の**101%**に相当します。
※管理目標=前年05年度実績(1,355L)×借上げ車台数計上比(1.0)
また、前年05年度実績に対しても前年比**101%**となりました。

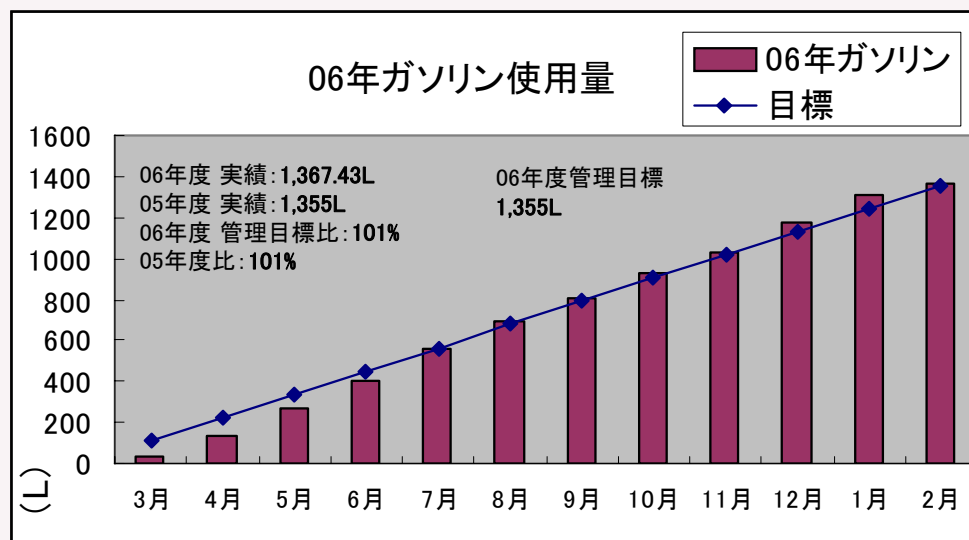


図 IV-3-3 06年度月別ガソリン使用量(L)

IV. 06年度環境目標とその実績

3. 項目別負荷実績

3-4 廃棄物総排出量

06年度の廃棄物総排出量は、**192.6Kg** の実績となりました。この廃棄物総排出量は、**管理目標:320kgの60%**に相当します。

※管理目標=前年05度実績(843Kgから産業廃棄物関係483kgを除いた360Kg相当)x0.9(増分1割削減)

また05年度実績に対し、前年比**23%**となりました。

廃棄物の内訳の構成比率は、再生利用できるものでは缶が3%、ビンが1%。

単純焼却のものでは厨芥が62%、紙が19%、プラスチック類が11%、ペットボトルが4%となっています。

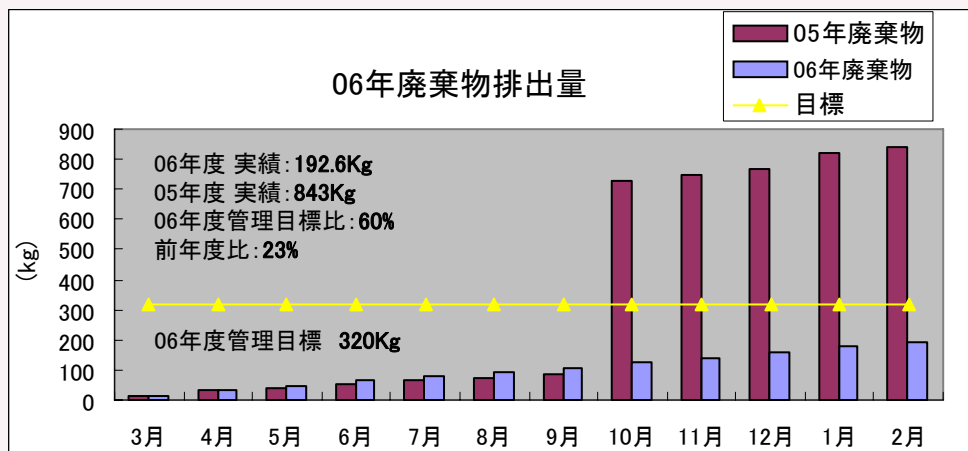


図 IV-3-4 06年度月別廃棄物総排出量(kg)

表 IV-3-4 06年度廃棄物総排出量(kg)内訳

	種類	重量(kg)	割合
再生利用	カン	6	3%
	ビン	1	1%
	OA機器	0	0%
	小計重量	7	4%
単純焼却	紙	37.2	19%
	厨芥	120	62%
	ペットボトル	7.5	4%
	他プラスチック類	20.9	11%
	小計重量	185.6	96%
その他	粗大ゴミ	0	0%
	産業廃棄物	0	0%
	小計重量	0	0%
	合計重量	192.6	

※05年度に行っていた、廃棄品リサイクル処理システムでのOA機器廃棄は、今年度は廃棄品がなかったために活動がありませんでした。

V. 主要な環境活動計画の内容

1. 主要な環境活動計画の概要

表 V-1 主要な環境活動計画の概要

	環境活動計画	概要
1	節電対策	14本の蛍光管を照度の高い三波長管に切り替え。
2	ゴミの分別	5種類のゴミ箱を設置、新聞・雑誌及びダンボールは別回収。
3	紙類の溶解処理依頼	書類等をシュレッダーゴミとせず、そのまま溶解処理依頼し、ダンボールに再生。
4	エコ商品の購入	環境にやさしい商品を優先購入。
5	エコ推奨チェックリスト	毎月の定例会議にてエコ活動の推奨項目提示で啓発を行う。
6	社内エコ促進活動	掲示物等での呼びかけ。エコ活動の促進。
7	緊急事態の対応	消防計画の設定。

2. 環境活動計画の内容

2-1 節電対策

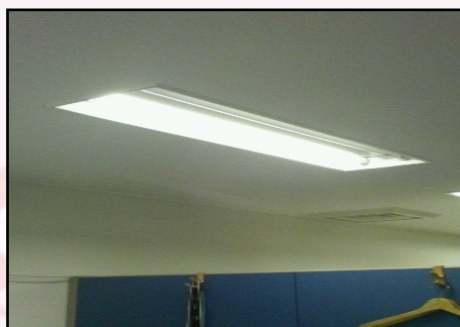


写真 V-2-1 ダミー管による蛍光管数の削減(節電対策)

使用電灯を三波長管に切り替え、電灯の削減

前年05年度に、作業に支障のない範囲で白色蛍光管の使用本数を減らし、2本ある蛍光管のうち1つをダミー管にし、これに反射板を組み合わせることで照度を落とさないというカットワン・システムを採用しました。

06年度はこれに加えて、白色蛍光管をさらに明るい三波長管に切り替え、照度の向上を図りました。

三波長管は白色蛍光管と比較して、10～20%明るい蛍光管です。また、反射板との相性もよく、組み合わせた場合、省エネ効果をそのままにさらに照度をあげることができます。

06年度は計14本の蛍光管を三波長管へと切り替え、電灯の削減ができました。

V. 主要な環境活動計画の内容

2. 環境活動計画の内容

2-2 ゴミの分別

5種類のゴミ箱を設置、新聞・雑誌及びダンボールは別回収。



写真 V-2-2 5種類の分別用ゴミ箱(ゴミの分別)



写真 V-2-2 新聞、雑誌(ゴミの分別)

可燃ゴミ、不燃ゴミ、ペットボトル、缶、ビンと5つのボックスを使い、分別を行っています。この他に、吸殻、茶殻の分別も行っています。新聞・雑誌及びダンボールは別回収で廃棄し、再利用されています。また、廃棄時にゴミの計量を行い、何のゴミがどれくらい出ているかの記録も行っています。この取り組みによって、ゴミの再資源化に貢献することになると共に、ゴミの削減に対する意識が高まることにもつながります。

2-3 紙類の溶解処理依頼

書類等をシュレッダーゴミとせず、そのまま溶解処理依頼し、ダンボールに再生。



写真 V-2-3 エコボックス(紙類の溶解処理依頼)

個人情報等を含む管理廃棄書類等のゴミは、エコボックスを利用して処理しています。エコボックスは、書類を入れたボックスごとそのまま溶かし、100%がダンボール原紙として再利用されます。シュレッダーでの処理は焼却処理になり、CO2を排出しますが、エコボックスでの溶解処理は、CO2を排出せず、リサイクル率の向上にもなります。

V. 主要な環境活動計画の内容

2. 環境活動計画の内容

2-4 エコ商品の購入

環境にやさしい商品を優先購入。

表 V-2-4 品数・金額のエコ比率(エコ商品の購入)

	06年度		
	事務用品	OA機器	全体
品数エコ比率	53%	0%	48%
金額エコ比率	59%	0%	56%

事務用品や、OA機器を購入する際には、できるだけエコ商品を選択して購入するよう心がけるとともに品数と購入金額を記録しています。エコ商品とは、商品が、環境へのダメージが少なく、環境に配慮された材料で作られたことを示す環境ラベル等がついた商品です。これらは省資源、廃棄物の削減、資源回収の促進に役立っています。ブリッジ・メタウェアが購入しているエコ商品は、

※

- ・グリーン購入法
- ・エコマーク
- ・GPNデータベース

等の環境ラベルがついた商品です。

※環境ラベル商品について

- ・グリーン購入法 →平成12年5月に循環型社会形成推進基本法の個別法のひとつとして「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律(グリーン購入法)」が制定され、その基本方針に基づいた判断基準に合致した商品がグリーン購入法適合商品とされます。
- ・エコマーク →日本環境協会が実施している事業で、身近な商品の中から環境負荷が少なく、環境保全に役立つと認められている商品にこのラベルがついています。
- ・GPNデータベース→グリーン購入ネットワーク(GPN)が運営する「グリーン購入のためのGPNデータベース」に掲載されている商品にこのラベルがついています。

V. 主要な環境活動計画の内容

2. 環境活動計画の内容

2-5 エコ推奨チェックリスト

毎月の定例会議にてエコ活動の推奨項目提示で啓発を行う。

社内外におけるエコ活動を取上げ、課題と活動項目推奨リストを定例会で提示することを始めました。このエコ推奨リストの項目確認や自己チェックから自己評価を行ったり、新たな取組課題や目標を作ったり等、社内環境コミュニケーションの改善と各人啓発に取り組んでいきます。

表 V-2-5 エコ推奨リストの内容例（エコ推奨チェックリスト）

エコ推奨リスト		前月の集計結果	
エコドライブ		エコドライブ	
	評価点		
車に余計な荷物は積まない			2
アイドリング・ストップを行う			1.9
タイヤの空気圧が正常か調べる			1.8
急発進・急加速をしない			2
空ぶかしをしない			2
エアコンの設定をいつもより1℃高めに設定する。			2
小計	/12	小計	11.7/12
ゴミの削減		ゴミの削減	
	評価点		
新聞・雑誌は「紙類」として纏めて捨てる(燃えるゴミに出さない)			2
シュレッダーよりECOボックスを利用する			2
過剰包装は断る			1.6
NEW ペットボトルはつぶして捨てる。			
NEW 物を大切に、長く使えるよう心がける。			
小計	/10	小計	5.6/6
節電		節電	
	評価点		
未使用時のコピーボードの電源はOFFにする			1.8
最終退社時には加湿器の電源をOFFにする			1.9
不在場所の消灯節電を行う			1.9
NEW コンセントからプラグをこまめに抜く(シュレッダー・レンジ等)			
小計	/8	小計	5.6/6
<p>リストの中の取組み項目に評価点(2.1.0)を点けて提出してください</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 既に取組んでいる(2点) ■ さらに取組みが必要(1点) ■ 取組んでいない(0点) 			

V. 主要な環境活動計画の内容

2. 環境活動計画の内容

2-6 社内エコ促進活動



図 V-2-6 BMエコキャラクター「nECO」

エコキャラクター、社内掲示物の作成

06年度はエコアクションを徹底的に周知させ、環境活動を更に促進させるために、ブリッジ・メタウェアのエコキャラクターを作成しました。

名前は「nECO」です。

今後はこのキャラクターを会社HPに登場させ、毎月のエコ活動の報告をさせたり、エコに関するアドバイス等をさせることを予定しています。

エコをもっと身近に、環境活動を楽しみながら行っていけるよう取り組んでいきたいと考えています。



写真 V-2-6 掲示物でのエコ促進活動

エコアクションに取り組むにあたって、節電やゴミの分別等、普段より少し気をつけていかなければならない部分があります。

ゴミ箱の近く、ホワイトボード、冷蔵庫など、ふと目のつくところに省エネを呼びかける掲示物があることで、各自が少しのエコ意識を持って行動をすることができます。

各自がほんの少しだけ、いつもより気をつけてみるということが大切で、それが積み重なることで、大きな省エネになるのではないかと考えています。

V. 主要な環境活動計画の内容

2. 環境活動計画の内容

2-7 緊急事態の対応

消防計画の設定。

表 V-2-7 訓練・教育(緊急事態の対応)

対応項目	実施日	記録
1) 訓練または点検は、ビル側計画と併せて実施する。 ・初期消化訓練 6ヶ月に1度 ・通報連絡訓練 6ヶ月に1度 ・避難誘導訓練 6ヶ月に1度 ・自主・法定点検 6ヶ月に1度 ・防災教育訓練 6ヶ月に1度(採用等必要時は随時) 消防組織図および避難経路図を室内に掲示し、 消防計画の周知、火災予防・出火時の対応確認を教育する。	H18.9	消防設備点検(非難バルコニー、消防ベル等)
防災教育訓練:6ヶ月に1度(採用等必要時は随時) 1.(採用時)	H18.7.6	対象:新入社員、防災教育未経験者 日時:7月6日 11:30~12:00 場所:当社会議室 内容:自衛消防組織について 防火設備等について 避難先と避難の原則 受講者3名:①H17.9採用者 ②H18.7採用者 ③H18.7採用者
	H18.8.3	対象:新入社員、防災教育未経験者 日時:8月3日 11:30~12:00 場所:当社会議室 内容:自衛消防組織について 防火設備等について 避難先と非難の原則 受講者1名:①H18.8採用者

VI. 環境保全活動の取組結果の評価

表 VI 環境保全活動の取組結果の評価

No	活動	取組	評価
1	節電対策	白色蛍光管を照度の高い三波長管に切り替えました。 照度をあげたことで14本の電灯の削減ができました。 電力量は増加してしまいましたが、意欲的に節電に取り組むことができました。	売上単位の電力使用量 →前年比118%
2	ゴミの分別	可燃ゴミ、不燃ゴミ、ペットボトル、缶、茶殻、とゴミ箱を分け、 分別はきちんと実行されました。この分別によって、ゴミの削減、 再資源化への取組ができました。	売上単位の廃棄物総排出量 →前年比60%
3	紙類の 溶解処理依頼	06年度は、4箱(80Kg)分を回収。廃棄物排出量削減だけでなく、 Co2の削減にもつながりました。	80Kg分相当の100%が ダンボールに再利用されました。
4	エコ商品の購入	事務用品やOA機器購入をする場合、 エコ商品であるかどうかを必ずチェックし、そうでなければ エコ商品のもので類似品がないかを探し、 できる限りエコ商品を選択するように取り組むことができました。	エコ商品購入の割合(品数) →全体の48% エコ商品購入の割合(金額) →全体の56%
5	エコ推奨 チェックリスト	定例会議にてエコ活動の推奨項目提示を行いました。 課題が達成されたら新しい項目を追加して取り組む等、積極的に活動 ができました。	取組み課題の追加ができました。
6	社内エコ促進 活動	ポスター等の掲示物、エコキャラクターの作成を行いました。 07年度から本格的に取り組めます。	社内の目につくところにポスターをはり、 呼びかけることができました。
7	緊急事態の 対応	訓練・防災管理教育に関し、計画を設定しました。	2006年度は、事故、緊急事態の発生は ありませんでした。

VII. 環境関連法規への違反訴訟の有無

2006.03.01以前、
2006.03.01～2007.02.28の期間及び、
当該レポート作成完了(2007.03.27)時点まで、
環境活動法規への違反、訴訟はありません。
当社の事業活動で関連する主な環境関連法規は、
以下の通りです。

- ・廃棄物の処理、清掃
→[廃棄物の処理及び清掃に関する法律](#)
- ・家電製品、OA機器等のリサイクル
→[家電リサイクル法](#)
- ・廃棄物削減、再利用
→[資源有効利用促進法](#)
- ・エコ商品の購入
→[グリーン購入法](#)
- ・包装容器(ダンボール等)分別収集
→[包装容器リサイクル法](#)

各関連法規の状況は、右のURLを参照して、
一ヶ月に一度定期的な確認を行っています。
また、県庁(神奈川県)や市役所(横浜市)、
チーム-6%の情報も併せて確認を行っています。

表 VII 環境関連法規等

主な関連法規	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	law.e-gov.go.jp/htmldata/S45/S45HO137.html
家電リサイクル法	www.meti.go.jp/policy/kaden_recycle/ekade00j.html
資源有効利用促進法	www.meti.go.jp/policy/recycle/main/admin_info/law/02/index.html
グリーン購入法	www.meti.go.jp/policy/recycle/main/admin_info/law/09/index.html
包装容器リサイクル法	www.meti.go.jp/policy/recycle/main/admin_info/law/04/index.html
その他	
EA21	www.ea21.jp
消防法	www.houko.com/00/01/S23/186.HTM
チーム-6%	www.team-6.jp/
神奈川県	www.pref.kanagawa.jp
横浜市	www.city.yokohama.jp/front/welcome.html

VIII. 07年度の環境目標

1) 中期目標について

■売上実績当りの二酸化炭素排出量の継続低減(～1割低減)

06年度の実績より、目標を06年度実績の90%～100%の値に修正しました。

表 VIII -1 売上当りの二酸化炭素排出量(t-co2/億円)

項目	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度
CO2(t-CO2/億円)	18.3	17.4	18.0	-	-	-	-
目標(t-Co2/億円)	-	16.5～18.3	15.7～17.4	16.2～18.0	16.2～18.0	16.2～18.0	16.2～18.0
前年度比(%)	-	95%	103%	90%～100%	90%～100%	90%～100%	90%～100%
評価	-	○	△	-	-	-	-

2) 単年度目標について

■各環境負荷の計画管理目標(前年度実績×事業規模比×0.9)による増加抑制・低減

※廃棄物の事業活動規模前年比について

06年度にはなかった産業廃棄物の廃棄ですが、今年度はPC等の廃棄があることを予測して、目標を06年度の実績に産業廃棄物の廃棄予定をプラスしました。

表 VIII -2 各環境負荷の計画管理目標

環境負荷項目	06年度	07年度					
	実績	事業活動規模前年比	削減率	計画管理目標	実績	目標	他換算値
Co2	23.71 (t-CO2)	1.15 売上計画比	0.9	24.54 (t-CO2)	- (t-CO2)	<24.54 (t-CO2)	
電力	532.42 (KMJ)	1.15 売上計画比	0.9	551.05 (KMJ)	- (KMJ)	<551.05 (KMJ)	<56,058 (kwh)
ガソリン	47.31 (KMJ)	1.00 車台数比	1.0	47.31 (KMJ)	- (KMJ)	<47.31 (KMJ)	<1367 (L)
廃棄物	192.6 (kg)	前年度総排出量 +産業廃棄物(PC等)	1.0	255 (kg)	- (kg)	<255 (kg)	

Ⅸ. 07年度の環境活動計画

07年度は、下表の環境活動を中心に更なる改善に取り組みます。

表 Ⅸ 07年度の環境活動計画

No	環境活動	07年度環境活動計画
1	節電対策	節電対策を継続していきます。不在場所の消灯を徹底し、また待機電力の節約のために、使わない電源プラグのコンセントは抜いておく等、こまめに節電に取り組みます。また、月ごとに電灯、PC、サーバ等の数量のチェックを行い、電力量の増減の原因の把握を図ります。
2	ゴミの分別	ゴミ分別を実行継続していきます。不要な雑誌や新聞等は纏めて回収し、紙ゴミの排出量を削減できるよう取り組みます。
3	紙類の溶解処理依頼	エコボックスを積極的に利用し、シュレッダーゴミの低減に取り組みます。
4	OA機器のリサイクル廃棄依頼	OA機器の廃棄の際には、リサイクル処理システムを利用します。
5	エコ商品の購入	エコ商品の購入だけでなく、物を大切に使い、資源の無駄を出さないよう取り組みます。
6	エコ推奨チェックリスト	月次レポートにエコ推奨リストを掲載し、社員全員が一ヶ月間の自分自身の取り組みをチェックします。このエコ推奨リストの結果からできることを考え、改善していくことや新たな課題、目標を作り、次月に達成できるよう積極的に取り組んでいきます。
7	社内エコ促進活動	エコ促進ツールを社内に掲示。月社内に取組を周知させるよう取り組みます。
8	チーム-6%への参加	CO2排出量6%削減を目指す、国民的プロジェクトに参加。ひとりひとりができることを行い、他のチーム員の活動を参考にしながら、今後どのように動くべきなのかを考えます。アンケート調査に参加し、チームの活動に貢献します。
9	HP内環境ページの充実	環境活動を広めるために環境ページを充実させます。作成したエコキャラクターを使った活動報告をしたり、EA21事務局、チーム-6%等環境関連のリンクを作成して、環境活動を社外にも周知させていきます。
10	緊急事態の対応	緊急事態に備えた点検、訓練を怠らないようにしていきます。